

公益財団法人 九州先端科学技術研究所
所管事務調査（令和6年度）

目次

1. 福岡DXコミュニティ (fdx.community)	P1
2. エンジニアフレンドリーシティ福岡 (EFC)	P2
3. ビッグデータ&オープンデータ・イニシアティブ九州 (BODIK事業)	P3
4. 有機ELデバイスを活用した地場企業支援	P4
5. 分析・解析よろず相談事業「分析NEXT」	P5
6. グリーンイノベーション事業	P6

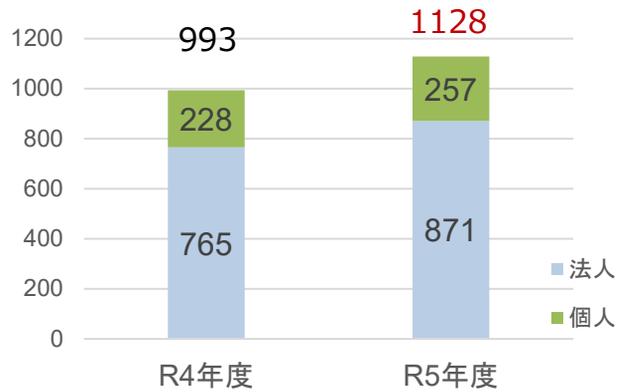
1. 福岡DXコミュニティ (fdx.community)

AI、IoTおよびDX関連事業者・大学・金融機関等によるオープンなコミュニティを構築し、センサーデータを活用した地域の課題解決の事例や知見を共有することにより、AI、IoTおよびDX関連分野における新製品・サービスの創出を促進につなげるため、セミナーや企業間マッチング支援等、様々な取組みを実施。

福岡DXコミュニティ
fdx.community **1,128** 会員

法人 871
(市内460 県内市外34 県外377)
個人 257

「R6年3月末時点」



FDXで学んだ会員企業DX担当職員が自社で勉強会を実施



勉強会や交流会など、様々なDXに関するイベントを実施 (右写真は、CEATECに出展し、市内企業が発表の様子)



第8回 ふくおかDX祭り in SRP

開催日：令和5年11月10日（金）
会場：福岡SRPセンタービル
来場者数・359名 出展企業・34団体



「データが主導する未来」をテーマに、デジタル社会の実現に向けたデータ活用の最新事例等に関する講演やワークショップのほか、企業による展示会も実施。
また、BODIK事業10周年を記念し、BODIKオープンデータサミットも実施。

IT分野でのネットワーク促進、人材育成、新ビジネスモデルの創出を支援

2. エンジニアフレンドリーシティ福岡（EFC）



Engineer Friendly City
Fukuoka

「エンジニアが集まる、活躍する、成長する街」をコンセプトに、エンジニアが福岡市で働きたいと思うような街づくりを目指し、以下の取組みを実施。

ハッカソン・コンテストの実施

新たなサービスや製品、時代をリードするプロトタイプなどを生み出すエンジニアの育成・発掘を目的に、ハッカソン・コンテスト「Engineer Driven Day」を実施。EFC賛同企業の現役エンジニアのサポートを受けながら、アイデア出しからプロダクト開発まで一連の流れを体験。

学生や社会人の参加者がプログラムを学んだ他、エンジニアを目指す参加者や現役エンジニアの交流会等も実施。【プロダクト応募数：20チーム（75名）】



コンテスト受賞者から
スタートアップ企業も誕生

誰でも簡単にダンスモーションを制作できる
最強AIダンサー
Saiyo AI



MADSOFT

生成AIを使ったプロダクト

エンジニアフレンドリーシティ福岡アワードの実施

福岡のエンジニアコミュニティ文化の発展に貢献する「エンジニアコミュニティ」や、エンジニアを取り巻く環境の充実に取り組む「企業」、優れたプロダクトを開発したチームを表彰する「エンジニアフレンドリーシティ福岡アワード」を実施した。

情報発信

学生等にエンジニアに興味を持ってもらうことを目的に、EFCの取組みやイベント情報のほか、福岡で活躍する賛同企業やエンジニア、福岡のIT企業のインターンに参加した学生等のインタビューをWebサイトで発信した。



ITで製造・建設の現場をアップデート
—地域産業の再興目指すソフトウェアエンジニアたちの実像

【EFCカタルト参加者インタビュー】カタルトは、自分の可能性を信じて広げていけるプログラム

株式会社オルターベース（福岡工業大学情報工学部出身） 福岡天駿さん



福岡天駿さん、株式会社オルターベース（福岡工業大学情報工学部出身）

市内IT関連企業の技術人材育成、ネットワーク化を推進

3. ビッグデータ&オープンデータ・イニシアティブ九州 (BODIK事業)



BigData & OpenData Initiative in Kyushu

デジタル社会の実現を目指し、誰でも簡単にオープンデータの利活用ができる社会を実現するために、データ公開から活用までの支援を実施。



BODIK ODCS
BODIK オープンデータカタログサイト

オープンデータ公開支援

地方自治体がオープンデータを公開するためのカタログサイトを無償で提供

参加自治体数

日本国内で最大規模の
オープンデータカタログサイト

310 / 1,788

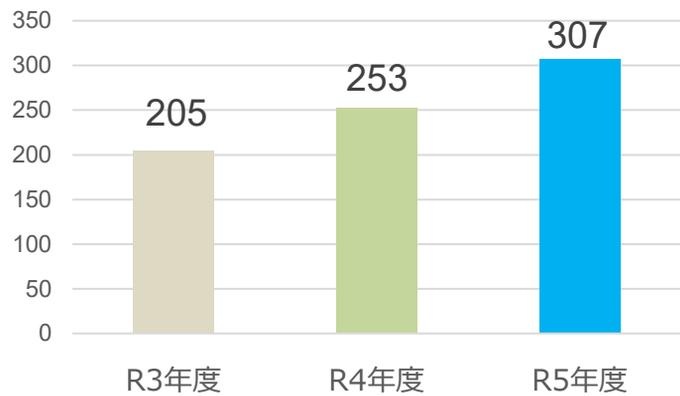
BODIK ODCSに登録されている

データセット数：**12,289**

ファイル数：**95,469**

(R6年6月現在)

参加自治体の推移



BODIK ODM

BODIKオープンデータモニター

オープンデータの発見性を高めるために、オープンデータを集めたポータルサイト、全国のオープンデータを横断して検索可能

検索可能自治体数

全自治体の**64%**の
オープンデータを検索可能

1,155 / 1,788

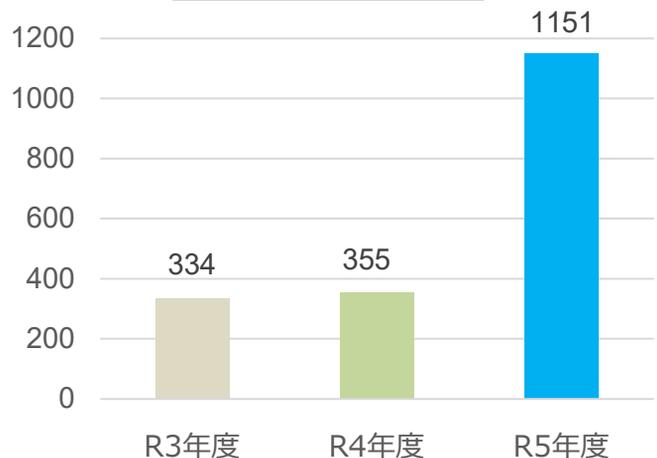
BODIK ODMに掲載されている

データセット数：**61,504**

ファイル数：**390,075**

(R6年6月現在)

検索可能自治体の推移



AIやIoTを活用し、市民サービス向上、新ビジネスモデルを創出

4. 有機ELデバイスを活用した地場企業支援 (有機EL照明の研究・支援)

照明用途としてのフレキシブル有機ELの事業化を目指す地場企業の支援として、ポリマー型有機ELの白色化及びフレキシブル化を共同研究。

【課題】

LEDで面発光照明を作り、意匠性が高いデザイン照明をデザイナーと設置したが、照明が厚く、曲げることもできないため様々な制約がある。

そのため、フレキシブル有機EL照明を使って、自由度の高い面発光照明を作りたい。



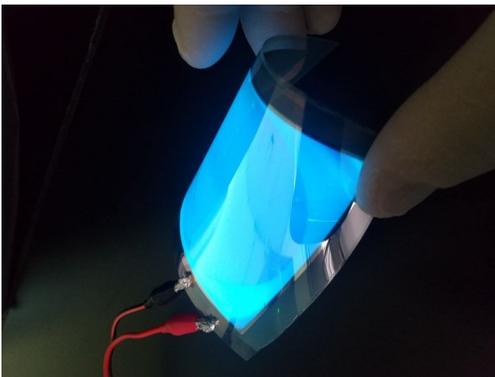
北陸新幹線越前たけふ駅待合室
(天井照明及び屏風はLED照明)

【共同研究】

- ・ISITで有機ELを学んで貰うために、企業研究員を受け入れ、一緒にフレキシブルポリマー有機ELの作製プロセスを研究。
- ・高性能化、白色（任意色）手法を研究。

ポリマー型有機EL

ポリマーを有機溶剤に溶かした溶液（インク）による塗布（印刷）プロセスにより、インクジェット印刷やグラビア印刷のような印刷技術を使って有機ELを作ることが可能。



試作したフレキシブル-ポリマー型
有機EL素子の発光の様子
(発光面積：7×7cm程度。厚さ：0.2mm)



(シートタイプ フレキシブル照明)



(テープタイプ フレキシブル照明)

最終製品のイメージ

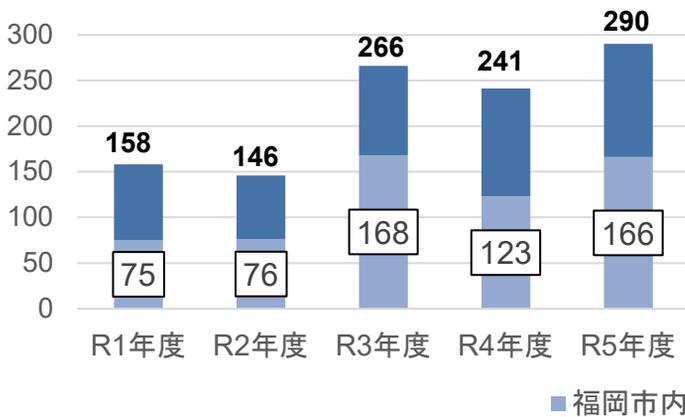
有機EL技術で、市内企業の新規事業を支援

5. 分析・解析よろず相談事業『分析NEXT』

電子顕微鏡などの分析機材を活用しながら、地場企業等が抱える課題について技術支援を実施。

金属加工や食品関連など様々な分野からの相談に対し、品質改善や製品開発等をサポートし、市内企業の新商品開発や技術力向上に貢献。

よろず相談件数 (過去5年)



■ L C A (Life Cycle Assessment) 評価を導入し、カーボンニュートラルに係る技術支援を実施

L C A (Life Cycle Assessment) とは、製品・サービスのライフサイクル全体（資源採取、原料生産、製品生産、流通・消費、廃棄・リサイクル）における環境負荷を定量的に評価する手法。

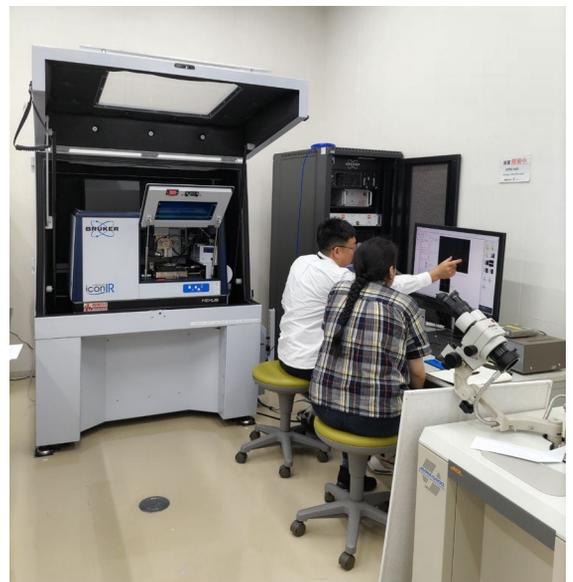
<令和5年度の相談実績>

51企業・大学等から**290**件の相談に対応

■ 地場企業を中心に認知度が高まり、相談件数も増加

【 主な改良・実用化支援案件例 (市内企業・団体) 】

- ・ 金属製品の不良品解析
- ・ 販売製品の生分解性評価
- ・ 抗菌関連商品の分析



5 **地場の中小企業・スタートアップ企業等の商品開発・販売促進を支援**

6. グリーンイノベーション事業

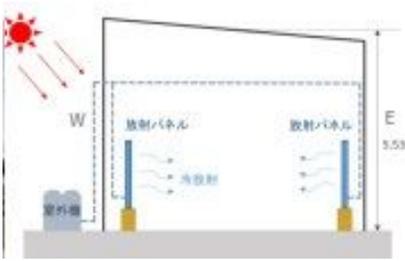
脱炭素の先進的な研究を行う九州大学と連携し、市内企業の脱炭素ビジネス参入を促進するとともに、脱炭素社会の実現に向けた産学連携機能を強化。

「福岡グリーンイノベーションチャレンジ」事業

福岡市の補助事業「福岡グリーンイノベーションチャレンジ」を通じて、カーボンニュートラルに資する新たな製品やサービスの開発に取り組む市内中小企業の支援を行った。

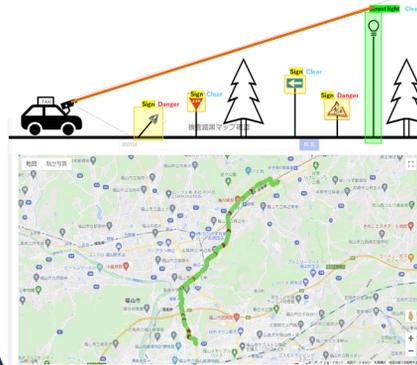
実績① 省エネ開発

大規模施設のエアコン「対流式空調」と比較した、電気量削減が可能な「輻射式空調」の設計負荷計算の確立と製品適用。



実績② ITシステム開発

道路付属物の点検を行う高所作業車の使用減による温室効果ガス削減を目的としたインフラ監視システムの開発。



実績③ インフラ開発

燃焼による乾燥法と比較し、環境負荷が低減できる「減圧式マイクロ波乾燥法」を用いた竹繊維の応用開発。



九州大学-ISIT-福岡市連携グリーントランスフォーメーション（GX）シンポジウム

開催日：令和6年1月31日

会場：アクロス福岡 7階大会議室

参加者数：141名

内容：脱炭素ビジネスと水素エネルギーの最前線をテーマに、基調講演のほか、福岡グリーンイノベーションチャレンジ事業採択企業の脱炭素ビジネス事例紹介などを実施。

九州大学で学ぶ水素エネルギー「子どもサイエンス教室」

開催日：令和5年9月16日（土）

会場：九州大学次世代燃料電池産学連携研究センター
及び水素エネルギー国際研究センター

参加者数：28人

（小学4～6年生の児童と保護者の2名1組）

内容：水素エネルギーミニ講義や実験、施設見学等

